

# 阿部地先のトコブシとサザエの 漁獲サイズと個体成長の推定—Ⅲ

小島 博・浜崎 晃・谷本尚則

前年度に引き続いて、阿部漁業協同組合に水揚げされたトコブシ（方言ナガレコ）とサザエの漁獲サイズを測定した。この調査はトコブシとサザエの資源増殖並びに保護上の問題点を明らかにすることを目的としている。

## 1 材料と方法

由岐町阿部地先から漁獲されたトコブシの殻長，サザエの殻高を測定した。測定は昭和58年7月12日から9月22日の間に8回実施した。1回の測定にはトコブシが147～214個，総計1,370個，一方サザエは1回の測定に118～218個，総計1,305個であった。

## 2 結果

トコブシの測定結果を，旬別による殻長組成として，図1に示す。漁獲サイズの平均値は，始漁期に62mm，

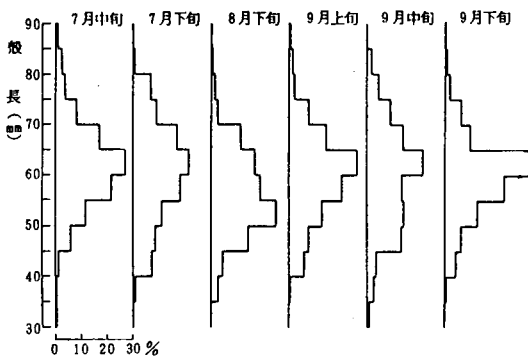


図1 漁獲トコブシの殻長の変化(由岐町阿部)

終漁期に59mmと若干小型化の傾向が認められたが，その差は小さく，ほぼ60mm前後であった。漁期を通して殻長50～70mmのトコブシが73%を占めていた。

サザエの測定結果を，トコブシと同様に旬別による殻高組成として図2に示す。漁獲サイズの平均値は始漁期(7月中～下旬)に68～70mm，終漁期(9月中～下旬)に64～65mmとなり，やや小型化傾向が認められた。漁期を通して見ると55～75mmサイズのサザエが74%を占めていた。50～60mmサイズのサザエは

9月に増加し，始漁期に20%前後であったが，終漁期には35～42%に増加した。一方，始漁期に21～28%を占めていた殻高75～85mmのものは，終漁期には11～13%に減少した。

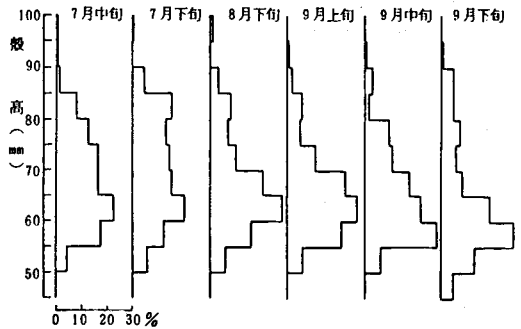


図2 漁獲サザエの殻高組成(由岐町阿部)

## 3 考察

漁獲トコブシの平均殻長は，57年54mm，58年57mm，本年度は60mmとここ3年大型化している。この原因は主に殻長55mm以上の出現頻度の増加による。漁獲量は56年3.7t，57年2.9t，58年6.5tであった。

漁獲サザエの平均殻高は，56年73mm，57年67mm，58年66mmと変化し，本年度は過去2年に比べて60～70mm，サイズの増加と75～88mmサイズの減少が著しい。一方，漁獲量は56，7年には凶作で4.7tに過ぎなかったが，58年には10.5tに増加した。小型化してかつ漁獲量が増加した点は，本年度の新加入年級群の発生量が好転したことを示すものと考えられる。

トコブシとサザエの成長の季節変化，年齢形質が明らかでないため，漁獲サイズの年変化を十分に説明できない。標識放流実験，天然産トコブシ，サザエの連続サンプリング資料等を用いて年齢—成長，成長の季節変化を検討する必要がある。来年度も資源解析，資源保護の基礎資料となる漁獲サイズ組成の資料を得ることが必要である。